

2018年度 第3四半期 決算説明資料

株式会社 神戸製鋼所

2019年2月5日

1. 連結業績概要

2. セグメント別 売上高・経常損益

参考情報

本資料の予想に係る部分は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2018年度第3四半期累計期間（2018年4月1日～12月31日）

(億円)

	17年度 第3四半期 (累計)①	18年度 第3四半期 (累計)②	前年同期比 ②-①
売上高	13,793	14,483	+690
営業損益	718	382	△335
経常損益	620	271	△348
特別損益	※1 91	※2,3,4 327	+235
親会社株主に帰属 する四半期純損益	558	450	△107

※1 投資有価証券売却益 91億円

※2 子会社化関連損益 48億円（神鋼鋼線工業の子会社化）

※3 投資有価証券売却益 314億円（神鋼不動産株式の75%を売却）

※4 災害による損失 △36億円（台風20号・21号・24号、西日本豪雨、大阪北部地震等）

2018年度業績見通し

(億円)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	18,811	20,300	19,900	+1,089	△400
営業損益	889	500	450	△439	△50
経常損益	711	250	250	△461	—
特別損益	20	363	※1,2,3 327	+307	※3 △36
親会社株主に帰属 する当期純損益	631	350	350	△281	—

※1 子会社化関連損益 48億円

※2 投資有価証券売却益 314億円

※3 災害による損失 △36億円

<為替レート>

	17年度	18年度	
		第3四半期 (累計)	第4四半期 見通し
USドル (円/\$)	111	111	110
中国元 (円/元)	16.8	16.6	16.0
ユーロ (円/€)	130	129	125

- 当社は、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。
- これに基づき、当期の期末配当につきましては、1株につき10円（年間20円）とする方針を決議いたしました。

<配当実績>

	15年度			16年度			17年度			18年度(予想)		
	中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間	期末	
配当金額 (円/株)	2.0	-	2.0	-	-	-	-	30	30	10	10	20

※2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。

セグメント別売上高・経常損益

(億円)

		17年度		18年度		増減		前回公表 (10/30)	
		第3四半期 (累計) ①	年度 ②	第3四半期 (累計) ③	今回年度 見通し④	第3四半期 対前年同期 ③-①	年度 対前年 ④-②	18年度 ⑤	増減 ④-⑤
鉄鋼	売上高	5,387	7,155	5,589	7,550	+202	+395	7,600	△50
	経常損益	199	173	31	30	△167	△143	30	-
	(内 在庫評価影響)	(25)	(90)	(45)	(55)	(+20)	(△35)	(30)	(+25)
溶接	売上高	600	805	620	820	+19	+15	820	-
	経常損益	39	49	23	30	△15	△19	30	-
アルミ・銅	売上高	2,609	3,495	2,718	3,650	+109	+155	3,750	△100
	経常損益	108	118	10	△40	△98	△158	△20	△20
	(内 在庫評価影響)	(45)	(60)	(15)	(20)	(△30)	(△40)	(20)	(-)
機械	売上高	1,108	1,613	1,216	1,780	+107	+167	1,810	△30
	経常損益	10	23	14	25	+3	+2	25	-
エンジニアリング	売上高	809	1,228	899	1,510	+89	+282	1,510	-
	経常損益	49	69	27	65	△22	△4	50	+15
建設機械	売上高	2,676	3,645	2,971	3,850	+294	+205	4,050	△200
	経常損益	158	219	226	240	+67	+21	240	-
電力	売上高	505	721	543	770	+37	+49	760	+10
	経常損益	46	79	△32	△20	△79	△99	△20	-
その他	売上高	480	688	293	420	△187	△268	430	△10
	経常損益	35	54	17	40	△18	△14	45	△5
調整額	売上高	△385	△543	△369	△450	+16	+93	△430	△20
	経常損益	△27	△75	△45	△120	△17	△45	△130	+10
合計	売上高	13,793	18,811	14,483	19,900	+690	+1,089	20,300	△400
	経常損益	620	711	271	250	△348	△461	250	-

2018年度第3四半期累計期間（セグメント別）

鉄鋼

- 鋼材の販売数量は、国内の自動車向けを中心に需要が堅調に推移したものの、一過性の生産設備トラブル、台風などの自然災害の影響などから前年同期を下回った。
- 鋼材の販売価格は、主原料価格上昇の影響を踏まえて価格改善に努めたことなどから、前年同期を上回った。
- 経常損益については、鋼材の販売数量の減少に加え、物流費の増加などから、上工程の集約による収益改善策が進捗したものの、減益となった。

(億円)

	17年度 第3四半期 (累計)	18年度 第3四半期 (累計)	前年同期比
売上高	5,387	5,589	+202
経常損益	199	31	△167
(内 在庫評価影響)	(25)	(45)	(+20)

<差異分析>

○17年度第3四半期（累計） 199億円 → 18年度第3四半期（累計） 31億円

(億円)

増 益 要 因		減 益 要 因	
総コスト削減	+5	生産・出荷	△ 15
在庫評価影響※	+20	原料価格	△ 100
		為替影響	△ 20
		連結子会社・持分法	△ 15
		その他	△ 42
合 計	+25	合 計	△ 192

※在庫評価影響には総平均計算による影響および低価法影響を含む。

<生産・販売状況>

粗鋼生産量	574万t	508万t	△66万t
鋼材販売量	457万t	419万t	△38万t
鋼材輸出比率 (金額ベース)	27.3%	25.5%	△1.8%
鋼材販売単価(千円/t)	81.5	86.0	+4.5

2018年度第3四半期累計期間（セグメント別）

溶接

- 溶接材料の販売数量は、海外における自動車向けが増加した一方、東アジアの造船向けが減少したことなどから、前年同期並となった。
- 経常損益については、原材料のコストアップなどにより減益となった。

(億円)

	17年度 第3四半期 (累計)	18年度 第3四半期 (累計)	前年同期比
売上高	600	620	+19
経常損益	39	23	△15

アルミ・銅

- アルミ圧延品について飲料用缶材向けを中心に販売数量が減少したものの、地金価格の上昇に伴う販売価格の上昇などにより、増収となった。
- 経常損益については、アルミ圧延品の販売数量の減少に加え、原油価格の上昇に伴うエネルギーコストの悪化や、製品の一部に対する不適切行為による影響により、減益となった。

(億円)

	17年度 第3四半期 (累計)	18年度 第3四半期 (累計)	前年同期比
売上高	2,609	2,718	+109
経常損益	108	10	△98
(内 在庫評価影響)	(45)	(15)	(△30)

<販売状況>

アルミ圧延品販売量	280千t	263千t	△17千t
銅板条販売量	45千t	45千t	+0千t
銅管販売量	61千t	64千t	+3千t

2018年度第3四半期累計期間（セグメント別）

機械

- 樹脂機械や圧縮機などを中心に大口案件の売上を計上したことなどから、増収増益となった。

(億円)

	17年度 第3四半期 (累計)	18年度 第3四半期 (累計)	前年同期比
売上高	1,108	1,216	+107
経常損益	10	14	+3

エンジニアリング

- 新鉄源プラントや廃棄物処理案件などの進捗差などから増収となるものの、案件構成差などにより減益となった。

(億円)

	17年度 第3四半期 (累計)	18年度 第3四半期 (累計)	前年同期比
売上高	809	899	+89
経常損益	49	27	△22

2018年度第3四半期累計期間（セグメント別）

建設機械

- 油圧ショベルの販売台数は、中国を中心に需要が堅調に推移したことなどから前年同期を上回った。
- クローラクレーンの販売台数は、クレーン倒壊事故の影響により国内では減少したものの、北米などの需要が堅調に推移したことなどから、前年同期を上回った。
- 経常損益については、油圧ショベルの販売台数の増加に加え、中国油圧ショベル事業における滞留債権の回収を進めたことに伴い引当金を取り崩したことなどから、増益となった。

(億円)

	17年度 第3四半期 (累計)	18年度 第3四半期 (累計)	前年同期比
売上高	2,676	2,971	+294
経常損益	158	226	+67

電力

- 神戸の新規発電プロジェクトの資金調達に伴う一過性の費用の発生や、神戸発電所の保全費増加などにより、減益となった。

(億円)

	17年度 第3四半期 (累計)	18年度 第3四半期 (累計)	前年同期比
売上高	505	543	+37
経常損益	46	△32	△79

2018年度業績見通し（セグメント別）

鉄鋼

- 主原料価格の上昇に伴うメタルスプレッドの悪化があるものの、在庫評価影響の改善を見込んだことなどから、経常損益は前回想定を据え置く。

(億円)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	7,155	7,600	7,550	+395	△ 50
経常損益	173	30	30	△ 143	-
(内 在庫評価影響)	(90)	(30)	(55)	(△ 35)	(+25)

<生産・販売状況>

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
粗鋼生産量	746万t	685万t程度	690万t程度	△ 55万t程度	+5万t程度
鋼材販売量	597万t	565万t程度	565万t程度	△ 30万t程度	同程度
鋼材輸出比率(金額ベース)	27.2%	26%程度	25%程度	△ 2%程度	△ 1%程度

<差異分析>

○18年度前回見通し 30億円 → 18年度今回見通し 30億円

(億円)

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+10	原料価格	△ 35
総コスト削減	+10	為替影響	△ 10
連結子会社・持分法	+5	その他	△ 5
在庫評価影響※	+25		
合計	+50	合計	△ 50

※在庫評価影響には総平均計算による影響および低価法影響を含む。

2018年度業績見通し (セグメント別)

溶接

- 溶接材料の需要環境は概ね前回通りに推移する見込みであることから、経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	805	820	820	+15	-
経常損益	49	30	30	△ 19	-

アルミ・銅

- アルミ圧延品の販売数量が減少することなどから、前回想定に比べ減収減益を見込む。

(億円)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	3,495	3,750	3,650	+155	△ 100
経常損益	118	△ 20	△ 40	△ 158	△ 20
(内 在庫評価影響)	(60)	(20)	(20)	(△ 40)	(-)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
アルミ圧延品販売量	363千t	350千t程度	347千t程度	△ 16千t程度	△ 3千t程度
銅板条販売量	60千t	60千t程度	60千t程度	同程度	同程度
銅管販売量	82千t	85千t程度	85千t程度	+3千t程度	同程度

2018年度業績見通し（セグメント別）

機械

- 圧縮機市場の厳しい競争環境は継続することが見込まれるが、経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	1,613	1,810	1,780	+167	△ 30
経常損益	23	25	25	+2	-
受注高	1,511	1,650程度	1,650程度	+140程度	同程度

エンジニアリング

- （株）IHI環境エンジニアリングの廃棄物処理施設関連事業を当社グループに統合したことや、案件の進捗差などから、前回想定に比べ増益を見込む。

(億円)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	1,228	1,510	1,510	+282	-
経常損益	69	50	65	△ 4	+15
受注高	1,192	1,250程度	1,250程度	+60程度	同程度

2018年度業績見通し（セグメント別）

建設機械

- 中国や東南アジアにおいて油圧ショベルの販売台数が前回想定より減少するものの、クレーンの倒壊事故による販売台数への影響が前回想定より小さくなることを見込まれることなどから、経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	3,645	4,050	3,850	+205	△ 200
経常損益	219	240	240	+21	-

電力

- 神戸発電所では、安定操業の継続により、引き続き安定的な電力供給を行なっていく。
- 経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	721	760	770	+49	+10
経常損益	79	△ 20	△ 20	△ 99	-

【フリーキャッシュフローおよび設備投資の状況】

＜フリーキャッシュフロー＞

(億円)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
営業キャッシュフロー	1,918	400	550	△ 1,368	+150
投資キャッシュフロー	△ 1,607	△ 700	△ 300	+1,307	+400
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	311	△ 300	250	△ 61	+550
プロジェクトファイナンス含む フリーキャッシュフロー	292	△ 400	150	△ 142	+550
プロジェクトファイナンス除く 現預金残高	1,582	1,000	950	△ 632	△ 50

＜設備投資の状況＞

(億円)

	17年度 ①	18年度見通し		増減	
		前回② (10/30)	今回③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
設備投資計上額	1,286	1,500	1,500	+214	-
設備投資支払額	1,366	1,500	1,500	+134	-
減価償却費	1,020	1,000	1,000	△ 20	-

	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 見通し
ROS ※1	△1.1%	3.8%	1.3%
1株当たり当期純損益	△63.54円	174.43円	96.60円
有利子負債 ※2	7,896億円	7,260億円	6,550億円
D/Eレシオ ※3	※4 1.17倍	0.98倍	0.9倍程度
ROA ※5	△0.8%	3.1%	1.1%
ROE ※6	△3.4%	8.9%	4.7%

※1：売上高経常利益率

※2：有利子負債は、IPPプロジェクトファイナンスを含まない

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※4：2017年度分借入金の前倒し調達（1,176億円）含む
前倒し調達除く2016年度D/Eレシオ：1.00倍

※5：経常損益/総資産

※6：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

<参考資料>【鉄鋼】四半期別鋼材生産・販売（単体）

	17年度 実績						
			上期			下期	年度
	1Q	2Q		3Q	4Q		
粗鋼生産量 (万t)	194	200	394	180	172	352	746
鋼材販売量 (万t)	152	152	304	153	140	293	597
鋼材販売単価 (千円/t)	80.8	82.2	81.5	81.5	81.5	81.5	81.5
鋼材輸出比率 (金額ベース)	27.1%	25.7%	26.4%	29.3%	26.6%	28.0%	27.2%

	18年度 見通し						
			上期			下期	年度
	1Q	2Q		3Q	4Q		
粗鋼生産量 (万t)	172	166	339	169	180程度	350程度	690程度
鋼材販売量 (万t)	139	132	271	149	145程度	295程度	565程度
鋼材販売単価 (千円/t)	83.5	87.0	85.2	87.4	88程度	88程度	87程度
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.9%	25.5%	25.7%	25.0%	24%程度	25%程度	25%程度

＜参考資料＞【鉄鋼】差異分析

○17年度 173億円 → 18年度見通し 30億円 △143億円

(億円)

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+135	原料価格	△ 200
総コスト削減	+35	在庫評価影響※	△ 35
連結子会社・持分法	+10	その他	△ 88
合計	+180	合計	△ 323

※在庫評価影響には総平均計算による影響および低価法影響を含む。